

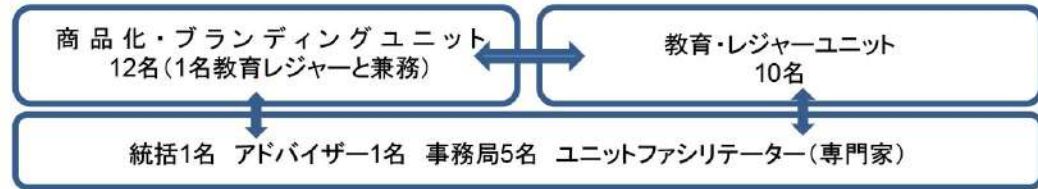
# 顔の見える木材での快適空間づくり事業

## 事業実施主体

糸魚川商工会議所 緑でつなぐ未来創造会議

## 実施体制・連携グループ

○川上～川下(森林組合、製材所、建築業、設計士等)の市内事業者と行政が連携した「緑でつなぐ未来創造会議(3M)」28名が実行



## 事業内容(利用拡大に向けた具体的な実施項目)

- ①糸魚川住宅基準モデルのオープンソース化
  - ・ISSH基準の明確化と明文化
    - i 糸魚川産木材1㎡あたり0.06㎡以上使用
    - ii 許容応力計算等による構造計算実施
    - iii HEAT20 G1～G3グレードに★1～3を付与
  - ・建築した住宅が基準を満たしているかチェックする認定システム検討
- ②糸魚川住宅基準モデルに係る業界関係者向けセミナーの実施
  - ・明確にしたISSHの内容を市内関係事業者の説明。合意形成を図る。
- ③糸魚川住宅基準モデルの見える化
  - ・ISSH準拠の建築モデル2種類設計
  - ・上記を3Dモデル等で見える化
- ④糸魚川住宅基準モデルのPR
  - ・市民に向けてPR活動ー健康と安心の家だけではなく、ISSHの家を建てることで地域経済循環⇒SDGsの取り組みにつながるという付加価値も含めてPRしていく
- ⑤ISSHデザインと糸魚川杉の黒芯材との連動
  - ・糸魚川産木材の使用量を定めているため、準拠住宅を増やすことで黒芯関連製品にも需要が出て好循環が生まれる。

## 【テーマ】木材活用による地域経済循環の創出

### 背景と目的

#### 【背景】

- ・糸魚川市面積の87%が森林資源であり、大半が木材適齢期前後。
- ・市内総生産24%が建設業。市外流出率は全国1220位。

#### 【目的】

- ・木材を中心にした地域経済循環の創出。

## 対象とする地域材を原材料とする付加価値の高い木材製品

- 糸魚川住宅モデルISSHの普及による市内木材の高付加価値化
  - ・糸魚川産木材の積極利用ー基準作り
  - ・高性能住宅ー耐震・断熱性能のラベル化
- 使用が避けられていた糸魚川産杉の黒芯をデザイン化し壁材等活用
- 糸魚川の木こりが切り、製材所が製材し、職人が建てる、オール糸魚川の家づくり
- 住宅産材の地域化によるA材の生産量増産

### 写真・図等



### スケジュール

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

①オープンソース化 ・ ③見える化

②業界関係者向けセミナー ・ ④市民向けPR

報告書作成